

最近佛敎研究論文

(A) 原典研究

四十二章經の新研究及英譯(二—四)

大集經論
井上 秀夫 (東洋文化五七—六〇)
阪野 良全 (現代佛敎三〇三)

(B) 史的研究

古來の衆聖點記說に六年の違算あることを考證す

支那禪流の史的小觀
王古と新修往生傳
歷史上に現れたる朝鮮佛敎の地位
加藤 精神 (現代佛敎三〇三—)
栗山 泰吾 (大乘禪三〇一—)
佐々木功成 (龍大論叢二七〇—)
大淵 宥澄 (我一—)
大久保道舟 (第一義三〇ノ一—)
永久 俊雄 (第一義三〇ノ一—)
高千穂徹乘 (龍大論叢二七〇—)
鷲尾 順敬 (國史教育創刊號)

元享釋書の成立年代
卍山和尚と正法眼藏
時宗の原始敎團に就いて
日本佛敎史(序講)
永平門下に於ける嗣法論争の梗概と其の批判
大久保道舟 (洞上公論二二—)
高祖大師の妙法蓮華經觀(二)皆川 新光 (駒澤大學論叢第一義三〇ノ一—)
新法性宗の而今而後
日下 大痴 (龍谷論叢二七一—)

最近佛敎研究論文

彌勒如來感應抄に就いて
奈良時代の淨土敎に就いて
入道尊圓親王と入木道
密敎相承の傳説に就いて
印契の起原及び發達
入唐以前に於ける空海大師周圍の人々
西光 義遠 (同右)
禿氏 祐祥 (同右)
魚澄惣五郎 (同右)
松本文三郎 (密敎研究二三—)
梶尾 祥雲 (同右)

智顛及善導の觀經疏に就いて
三願轉入
念佛と菩薩道—「敎行信證」を讀みて(一〇—)
緣起法の考察
大信より見たる華嚴經
眞宗七高僧の他力觀より親鸞を論じて道元に及ぶ
龍樹に於ける因緣の問題(五)、物と法(上)
中論哲學の研究
憐昭とその即身成佛義に就て
存覺上人の敎義と目蓮上人
入定と入滅との同異
南山學派と東寺學派(四)
大山 公淳 (同右)
足利宣正 (龍大論叢二七〇—)

(C) 敎理研究

曾我 景深 (佛座一ノ一〇—)
金子 大榮 (佛座一ノ一〇—)
安田 龜治 (佛座一ノ一〇—)
稻垣 最之 (大乘五ノ一一—)
今成 覺禪 (大乘禪三ノ一一—)
稻津 紀三 (佛座一ノ一〇—)
奈良 有道 (觀想三〇—)
慈弘 (現代佛敎三〇三—)
内田 舜圓 (龍大論叢二七—)
森田 龍僊 (密敎研究二三—)
大北 善照 (密敎研究二三—)

(D) 佛教藝術、考古學的研究

大乘佛教美術の紀元及發達體系

小野 玄妙 (史學雜誌七ノ二〇)

(E) 雜

本緣部の聖典—佛傳を中心とする大小乘渾一の文學的經典—

佐藤 泰舜 (駒澤大學論叢 第一義三〇ノ一〇)

佛佛と經濟思想

宗教經驗と宗教原理

維新當時の神佛分離

佛教の經濟思想

南洋に於ける佛教の跡

秣羅矩吒國及布咀落迦山考

佛教天文學

今津 洪嶽 (第一義三〇ノ九)

曾我 量深 (佛座一ノ一一)

寺本 慧達 (龍大論叢二七〇)

友松 圓諦 (佛教思想一ノ二)

宇野 圓空 (東方佛教一ノ七)

高桑 駒吉 (觀想三〇)

小野 玄妙 (現代佛教三ノ三二)

豫 告

本會制度の更改に伴つて、本誌の内容も其の範圍を擴張せられた。従つて本欄の學界總覽も、佛教の外に哲學、人文に關する諸研究をも新に之に加ふべきであるが、時期を劃する爲に、本年一月以後發表のものからにする。よつて其の實施は次號からである。因みに佛教學界の研究論文も、昨年十二月迄に發表せられたもので之を切つた。宜敷御諒恕を乞ふ。